



有松まちづくりの会役員会 (1月22日)

会に先立ち、1月9日亡くなられた藤枝静次参与のご冥福を祈り黙祷しました。また、名古屋市古民家利活用事業の受託業者"(株)つぎと"から、有松の古民家利活用の進め方など事業概要についての説明がありました。

有松まちづくりの会の設立50周年「有松を語ろう会」の具体案が事業部より示されました。有松福よせ雛さんぽ道開催に向け、名古屋短期大学の学生さん達が制作・展示など準備が着々と進んでいる旨報告がありました。



今月の花 いちご
(花屋Luore提供)

お知らせ 有松まちづくりの会設立50周年を記念して「有松を語ろう会」を開催します。

日時 3月20日(水・祝) 15:00より 場所 竹田家住宅(書院他)
皆さん、是非ご参加ください。

有松天満社 元旦祭 (12月31日～1月3日)

元日9時、拝殿前には暖かい日差しに誘われて参拝者の列ができていました。階段を下りた上の広場では、絵馬を奉納したりおみくじを開けたりしている人が見られました。巫女さんにお祓いを受けている人も・・・焚火では知り合いとの話に盛り上がっているようです。

文嶺講の皆さん20名程の心配りもあり、新年の初めに相応しい場となっていました。



今枝社中による 尾張万歳の披露 (1月4日)

今年も、名古屋城・徳川園に続き有松に来て下さいました。寿限無茶屋前では、路上ライブのように食後の観光客10数名を前に披露して下さいました。代表の今枝増笑門(ますえもん)さんは「30年前尾張漫才を絶やしたくないと始めた」と仰っていました。



有松天満社左義長 (1月14日)

8時過ぎより古札やお守りが火にくべられていました。御神酒振舞いでは東陵中学校の生徒さんもお手伝い。三が日の人出は昨年並みで区内神社ベスト3です。賽銭はやや減少で世相を表しているのか?。約70万円程。



新年に向けて

■ お正月苔玉作り体験 (12月26日) 於:六弦とコットン

新年準備に相応しい企画。親子連れが参加していた。松の根をおにぎり状に固め、苔を貼り付け、糸で止める。最後に迎春プレートをつけ全体にラメを入れて出来上がり。水引の蝶結びは難しい。その非対称がいい。

この企画は舩屋さん店子の"花屋Luore"と"六弦とコットン"の連携で開催。店同士の連携した取り組みが、まちに賑わいをもたらしている。今、舩屋店子はアツいようだ。



完成作品

小学生が糸を巻く様子

◆ 有松天満社 注連縄(しめなわ)取り付け (12月29日)

牛未(ごよう)会の手で第3鳥居に注連縄が飾り付けられました。これまで欠かさず続けてきましたが、脚立を使う作業には若い人の手を借りることも・・・「新年は牛未会の仲間18人とお参りに来ます。これからも続けていきたい」と、笑顔で話されていました。

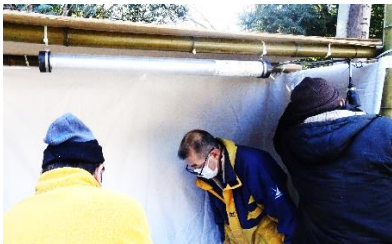


若い人の手を借りて↑



◆ 有松天満社 元旦祭準備 その後① (12月30日)

31日が雨天予想のため、1日繰り上げての作業。9時に20数名が社殿前に集合です。分かれて社殿掃除や提灯つけ・幕張りが行われていました。文嶺講総代の皆さん、慣れた手つきで2時間弱で概ね作業を終えていました。元旦祭を気持ちよく迎えていただくという想いが伝わってきました。



社殿前の打合せ風景↑



◆ 元旦祭準備 その後② (12月31日)

記者が訪れた22時過ぎ、参拝客がちらほら訪れていました。直前に雨が…。地面に雨対策に敷かれたシートが効果的でした。参拝客の中に親子連れがいました。「この時間に来ると天満社がよく見られるよ」と父の声。お参り後境内をくまなく歩いていました。

周りに目をやると焚火が燃え盛り、拝殿近くには手作りの門松が置かれていました。準備万端です。



参拝客を待つ拝殿

餅つき開催 (12月29日) 主催:suzusan+<くる 於:東海道沿いのsuzusan敷地内

年末まちを歩いていると素敵な出会いがありました。餅つきです。小さな子から人生の大先輩まで、代わる代わるお餅をついたり頬ばったり…丸めてかがみ餅を作る人も見られました。当日は、参加者が持ち寄ったお料理や飲み物と共に新鮮な無肥料・無農薬の野菜も売られていました。人と人との縁が紡ぎあう素敵な空間でした。



有松小学校3年生 地域学習 (12月20日)

2学期末、3年生98名が前半・後半各8グループに分かれて有松のまちを学んだ。校庭から東に下り、郵便局で東海道に出る。中町信号で左折し学校に戻るコース。今回は皆が先輩の作った法被を身に付けている。学習意欲が高まったのかもしれない。

有松あないびとの会の案内だが、各人の個性が出る。ブラタモリ風に、地形に着目した案内が目にとまった。小学校は高台に建っている。標高52mの高根山の中腹。元は東海道沿いに位置していた。巧みな言い回しと問いかけで子どもに気づかせている。また、蔵の前では右の絵を示して分かりやすく説明していた。終了時に自然と拍手が起こっていた。



《お知らせ》 1月・2月に、太子小・平子小・桶狭間小・豊明の中央小の児童が有松に勉強に訪れます。少しずつ参加校が増え、案内する有松あないびとの会の皆さんは嬉しい悲鳴をあげています。

緑区政60周年記念映画 有松で撮影 (12月20日)

緑区誕生にまつわる映画の制作が進められている。天満社での撮影の様子を紹介したい。

名古屋市への合併に向けて、鳴海町ではその10年ほど前から賛成派と反対派が厳しく対峙。そんなときの一枚の撮影のようである。

天満社上の広場に集まったエキストラ30名弱とスタッフ10数名。9:00緑区長挨拶を皮切りに監督からの演技指導があり、社殿近くの山道で撮影開始。「もっとにらむ様な目付きで」など監督の声が聞こえてくる。

11:00過ぎ、次の撮影のために東海道沿いの岡家住宅へ移動。和装の女性が参加した。エキストラは70年程前の衣装に身を包んでいるとか。

3月の映画の公開が楽しみになってきた。



緑区長



豆知識

合併に向けての年表

昭和28年(1953) 町村合併促進法
昭和38年(1963) 4月1日 鳴海町、名古屋市に合併。緑区誕生。
昭和39年(1964)12月1日 有松・大高両町、緑区に編入。

文嶺講総会 (1月14日) 於:中町年行司

有松天満社文嶺講総会で新役員が決まりました。

新総代長 西村明敏(第43代)⇒

副総代長 鋤柄哲夫・横井清明

相談役 鈴木章二

参拝者が増え、一層の充実した活動が求められることになります。

「更なるご協力をお願いします」

とのこと。



有松あないびとの会総会 (1月16日)

加藤明美会長(写真)の挨拶・審議の後、食事会が行われました。挨拶要旨「2003年1月7日に会は発足。22回目の総会です。今は会員47名の話し合いで運営する会になりました。コロナも収束しつつの中、対話しながらの案内ができることに幸せを感じています。会員の皆さんが、一層やりがいを持って活動していただくことで、益々会が繁栄することを願います」



Instagram 写真投稿キャンペーン期間延期 (～1月31日)

「有松の新たな魅力を発見！」したいと有松日本遺産推進協議会の主催した写真投稿キャンペーン実施期間が、更に投稿者を増やしたいと1月末日まで延長されました。

投稿者は投稿画面を有松・鳴海絞会館で提示すると、粗品(コースター・ようじ入れ・根付)をいただけます。絞会館の方は「粗品をたくさん用意しています。皆さんのお越しをお待ちしています」とおっしゃっていました。



コースター



※ 記事訂正のお詫び 2024年1月号で寺院名が間違っていました。春光院(誤)正しくは春江院。

催事・行事予定

1月24日～2月12日 第10回日展名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

2月19日(月) 10:30 おこしもん作り 旧カフェ庄九郎 NPOコンソーシアム有松

2月19日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

2月23日～3月24日 有松福よせ雛さんぽ道 有松東海道一帯 同実行委員会

2月25日(日) 7:30 かえで道清掃

2月26日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。



コロナ第10派到来
(1/17愛知県発表)

特集 工房探訪

昨年実施された「秋の有松めぐり」(10/1～12/3)では多くの方が有松に来てくださいました。今回初めて企画された"有松工房満喫きっぷ"は、対象の工房で絞り製品の製造工程や実演を見学し体験実習を行うもの。取材して、参加者の半端ない意欲の高さと作品への満足度に驚かされました。

● 早恒染色

流し染め発祥の染色工房ならではの設備と道具で、ハットとトートバッグを絞り染めする体験会を見学させていただきました。

11/16(木)の参加者は3人。取材訪問時は無地の帽子を小さく丸めて糸でぐるぐる巻きしていました。絞り教室を長年続けているためか「ひだをもっと」など適切な助言がある。次は染め。金網を敷いた流し台に括った物を置き、手のひらサイズのジョーロで染め液を注ぎます。「どんな模様になるのかな」不安げな表情も、脱水後手になると、安堵の表情に一変したのが印象的。



● 彩 Aya Irodori

代表で括り職人である大須賀彩さんの手ほどきを受けながら、麻ストールを絞り、紺色に染める体験を見学させていただきました。

見学した11/20(月)の参加者は2人。東京の方は「コロナで…やっと来られました」と。制作はじめはタブレットで柄・色合いを決定。彩さんのアドバイスがいい。聞きやすい雰囲気素晴らしい出来をもたらす。机上の治具(絞台)は彩さんオリジナルで、作業がはかどる。※



完成すると「あっ！いいな。着けて帰ります」と、大満足の表情でした。

※ ↑ 治具は、「本格的な手の動きを学んで欲しい」と自作された。机上に設置して使用された。

NHKG あさいチ 愛でたいnipponに”まり木綿”登場 (1月12日)

まり木綿は有松の町並みに絞りの店を新規出店した先駆的存在です。工房クリエイターの村口実梨さんが全身オリジナルの有松絞りで登場されていました。番組の一端を紹介したいと思います。

「カラフルに進化！伝統の絞り染め」と番組タイトルにあるように、村口さんは伝統技法に工夫を加えたオリジナルな染め方で制作を行っています。手拭いを細く畳み、三角形に蛇腹折り。木の板で挟みます。「板締め絞り」という伝統技法。挟んだ後に染料に浸すのが一般的なやり方ですが、村口さんは筆で色を入れます。「筆を使うと一色ずつ好きな色を載せることができ、よりカラフルに好きな柄を出すことができます」と。色にこだわった商品：手拭い・布バック等も紹介。「子どもが大きくなったら全国巡回したい」との抱負も。



祝！ 有松まちづくりの会50周年に寄せて 1

有松における町並み保存の経緯

1955(昭和30)	城戸 久氏(名工大教授)による「有松町民家調査」
1969(昭和44)	石川忠臣氏(新聞記者)が有松の町並み保存を提唱
1973(昭和48)	「有松まちづくりの会」発足
1974(昭和49)	有松・妻籠・今井町により「町並み保存連盟」発足 ※後に、「全国町並み保存連盟」に改称
1975(昭和50)	「有松町並み調査報告書」 *国が伝建地区制度を創設
1978(昭和53)	「第1回全国町並みゼミ」有松・足助大会
1984(昭和59)	有松が名古屋市独自の町並み施策「町並み保存地区」第1号となる
2008(平成20)	東海道無電柱化事業開始(～2013)
2012(平成24)	東海道沿いの町並み建物調査(～2013)
2015(平成27)	「名古屋市有松伝統的建造物群保存対策調査報告書」
2016(平成28)	重要伝統的建造物群保存地区に選定(染織町)
2017(平成29)	「第40回全国町並みゼミ」名古屋有松大会
2019(令和元年)	有松のまちが日本遺産に認定

1 町並み保存運動の先駆 有松

日本の町並み保存運動は、有松で始まった。1969年12月、有松の町並みに深く魅了された朝日新聞記者の石川忠臣さんが有松に来られ、7代目服部孫兵衛さんと7代目竹田嘉兵衛さんに会ったことがきっかけだった。石川さんの「古い町並みを残したい」という情熱と意気込みが二人の兵衛コンビに感銘を与え、有松の有力者を説得して、1973年「有松まちづくりの会」が発足した。

そして、翌年には「町並み保存連盟」が発足。日本の町並み保存運動を代表する会の発足式が、竹田家の書院で行われた。



第1回 有松・足助ゼミ

当時、それまで地域で町並みを保存するという考え方はなかった。今日の「重要伝統的建造物群保存地区」という国の制度ができたのは、その後の1975年。周囲の環境と一体になって歴史的風致を形成している伝統的建造物群を、「面」として保存していこうとするものです。つまり、条例や都市計画で建物保存と整備を行っていこうとするものです。全国に先駆けて、馬籠(長野県)・今井町(奈良県)の皆さんと共に町並み保存を訴えた有松の皆さんの先駆性が感じられる。

住民の故郷への情熱が、やがて住民だけでなく学者や行政の人も巻き込んで「ゼミ」という懇親と交流の場を生み出した。1978年のことです。「第1回 全国町並みゼミ有松・足助大会」のスローガン「町並みはみんなのもの」の表現に、町並み保存の理念が集約されているようです。かつて石川忠臣さんは「<一軒の民家は個人の大切な財産だが、外観は祖先伝来の町みんなのものだ>と云ってのけた住民の知に感動した」(第17回大会レジュメ)と、記している。

ただ、当時は高度成長の開発ブームの最中で、地域の人や行政の反応が鈍かったのも事実でした。2009年、中舛竹田家の取り壊しをきっかけに、法令に基づいた実効ある町並み保存、つまり重伝建選定を目指す動きが加速。やがて、2016年に有松の町並みは111番目の重伝建地区に選定された。